

通常展「谷崎潤一郎 人と作品」

2016年

7/2(土) 9/4(日)

芦屋市谷崎潤一郎記念館 展示室

開館時間 10:00~17:00 (入館は16:30)

休館日 月曜日(7/18は開館、19休館)

入館料 一般300円  
大高生200円  
中学生以下無料

※団体料金(20人以上)は2割引  
※65歳以上、または身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方、ならびにその介護の方1人は半額

特設展示

# 潤一郎、郷愁の幼き日々

1886年(明治19年)、谷崎潤一郎は東京・日本橋の富裕な商家に生まれました。江戸情緒あふれる下町に育ち、美しい母に憧れを抱く幸福な幼年の日々でした。谷崎5歳の珍しい写真や、美人の誉れ高かった母・関の写真、晩年の随筆「幼少時代」(1957年刊)の嫡木清方による挿絵原画、夢の中の母を描いた「瘋癲老人日記」(1962年刊)の棟方志功の挿絵原画など、通常展「谷崎潤一郎 人と作品」と合わせ約100点を展示。生誕130年を機に谷崎文学を形成した原風景をお見せします。



▲「瘋癲老人日記」の主人公が母の夢をみる場面。棟方志功による挿絵原画。



▲5歳の谷崎潤一郎(1891年) 活版印刷所などを経営する富裕な一族に生まれた甘ったれのお坊ちゃんだった。



◀30歳ごろの母、関 美人絵草紙の大関にされたほど美貌の母は、谷崎の自慢だった。

## 特設展示関連講座

### 笹沼東一講演会 「谷崎潤一郎と祖父・笹沼源之助」

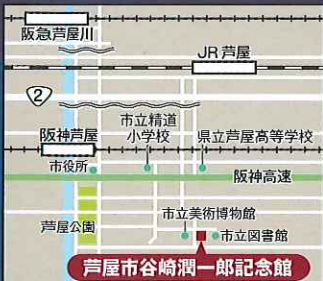
谷崎の生涯の親友で、日本で初めての本格的中華料理店「偕楽園」の経営者だった笹沼源之助の孫、東一さんが、谷崎の思い出を語ります。

7月10日(日) 13:00~14:30

当館講義室

定員30人(予約優先)

参加費 500円(入館料込み)



**交通**  
徒歩 阪神芦屋駅から南東へ15分  
バス 阪急芦屋川駅・JR芦屋駅・阪神芦屋駅  
いずれも「緑町」下車、東へ徒歩1分  
駐車場 阪神芦屋川駅20台、図書館47台

芦屋市谷崎潤一郎記念館 TEL 0797-23-5852

FAX 0797-38-3244

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12番15号 ホームページ <http://www.tanizakikan.com>

Eメール [ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp](mailto:ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp)

後援 読売新聞大阪本社 大阪よみうり文化センター